

つながりを切らない、孤立させない、 新しいつながりを考える情報を各地区社協へ発信!!

コロナ禍でも繋がりを大切に

富丘地区社協 あったか家族部会



▲あったか家族スタッフによる訪問の様子

富丘地区社会福祉協議会では10年前から毎年、高齢の方や障がいを持たれている方、その他、日中なかなか外に出る機会の少ない方等を対象に、同じ地域に暮らす家族として、趣味活動や食事などを一緒に楽しむ「あったか家族のつどい」という活動を、年10回行ってきました。

今年度は新型コロナウイルスの影響により、従来通りの活動はできなくなってしまいました。しかし、「このままでは、これまで築いてきた対象者の方々との繋がりが無くなってしまう」「何もしないとスタッフのモチベーションが保てないので、できることはやっていきたい」という思いのもと、今だからこそできる活動を検討し、プレゼントを用意しながら対象者のお宅を訪問する活動を行うこととなりました。

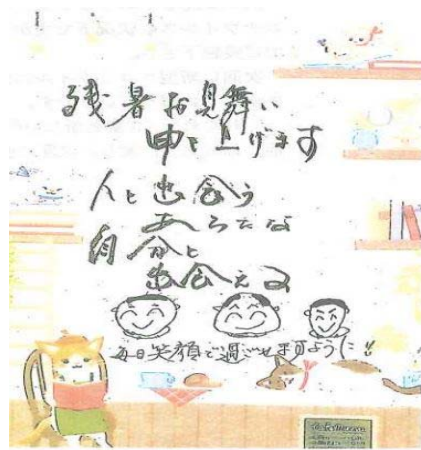
1回目に予定していた訪問は、新型コロナウイルス感染拡大に伴い取りやめざるを得ない状況となりましたが、布製マスクと残暑見舞いの絵手紙を対象者へ郵送したところ、「マスクをもらえて良かった」といった感想を聞くことができました。中には泣いて喜ばれている方もいて、スタッフも温かい気持ちになりました。

その後も毎月、スタッフの直筆メッセージや集合写真、電話連絡を通じて、対象者との繋がりを保ち続け、2回目の訪問予定の12月を迎えました。

新型コロナウイルスの感染が再拡大する中でしたが、対策を徹底した上で、クリスマスプレゼントの焼菓子をお届けしました。対象者の皆さんは訪問を待ち望んでいたようで、家の中を掃除したり、お茶を用意して待っている方もおり、スタッフの顔を見ると嬉しそうな表情を浮かべられていました。

人と会うことが制限され、寂しい思いをしている方も多く、声をかけてもらうだけでも嬉しいんだなということを改めて感じることができました。喜んでいる対象者の様子を見たことで、訪問することに不安を感じていたスタッフも、実施して良かったという嬉しい気持ちになりました。

コロナ禍により、予定していた活動ができなくなったり、様々な制限が加えられて、思うような活動ができない状況の中でも、スタッフの前向きな思いや、その思いに触れた対象者の方々からの喜びの言葉を聞くことができました。こういった、繋がりを維持していこうという気持ちが、現代の私たちにとって非常に重要なことなのではないかと思えます。



▲スタッフ作成の残暑見舞い